

平成28年度に町の施設から排出された温室効果ガス（二酸化炭素）の排出量を公表します

町では、「地球温暖化対策の推進に関する法律」の規定により、市町村に策定が義務付けられている温室効果ガスの排出量削減のための措置に関する計画として、平成28年4月より「第2次猪苗代町地球温暖化対策実行計画」（以下「実行計画」という。）を施行しました。

「実行計画」では、平成26年度を基準年度とし、計画期間の最終年度である平成31年度の二酸化炭素排出量を、基準年度と比較して3.8%削減することを目標としています。

対象施設一覧

施設名	施設名	施設名
役場庁舎	水道施設	幼稚園
水防センター	下水道施設	体験交流館
地域農業活性化センター	小学校	図書歴史情報館
農村環境改善センター	中学校	むかし体験館
優良堆肥製造施設	保育所・こども園	地域福祉交流センター

総合体育館(カメリーナ)など指定管理者制度により外部委託している町有施設は対象外としています。指定管理者には可能な限り「実行計画」の趣旨に沿った取組みを実践するように要請しています。

表1 種類別の使用量及び二酸化炭素排出量

種類	H26 使用量		H28 使用量		H26 排出量 (kg-CO2)	H28 排出量 (kg-CO2)	排出量比較 (%)
ガソリン	36,567	ℓ	36,133	ℓ	84,895	83,889	△1.19%
灯油	167,469	ℓ	163,120	ℓ	416,911	406,085	△2.60%
軽油	142,615	ℓ	99,537	ℓ	368,659	257,299	△30.21%
A重油	2,000	ℓ	0	ℓ	5,419	0	△100.00%
液化石油ガス (LPG)	7,411	Kg	6,500	Kg	22,225	19,493	△12.29%
電気使用量	3,875,832	kwh	3,981,136	kwh	2,151,088	2,209,530	2.72%
合計					3,049,197	2,976,296	△2.39%

○表1は、平成26年度と平成28年度の燃料などの種類別の使用量と二酸化炭素排出量を比較したものです。

○平成28年度の二酸化炭素排出量の合計は、基準年である平成26年度と比較して2.39%の減少となりましたが、目標である基準年度比較3.8%減を達成できませんでした。

○基準年より二酸化炭素排出量の合計が減少した主な要因は、暖冬により小中学校での灯油使用量が減少したことや、降雪量減少により除雪車の稼働が少なかったことが挙げられます。

○一方で目標を達成できなかった要因は、電気使用量の2.72%増加が挙げられます。これは、ひまわりこども園の開園及び地域福祉交流センターの開設による電気使用量の増加によるものです。

表2 種類別の二酸化炭素排出量増減の主な要因

種類	増減率 (%)	主な要因
ガソリン	△1.19	エコドライブ推進による使用減
灯油	△2.60	小中学校での使用減
軽油	△30.21	除雪車での使用減
A重油	△100.00	地中熱ヒートポンプ冷暖房システムによる使用減
液化石油ガス (LPG)	△12.29	保育所・こども園での使用減
電気使用量	2.72	「ひまわりこども園」の開園及び「地域福祉交流センター」の開 設による使用増

○表2は、種類別の二酸化炭素排出量増減の主な要因についてまとめたものです。

○種類別の二酸化炭素排出量では、減少率が最も高かったのは「A重油」の△100.00%で、庁舎内の冷暖房システムが地中熱ヒートポンプシステムに変わったため、重油の使用がなくなりました。続いて「軽油」の△30.21%で、これは暖冬による降雪量減に伴い、除雪車の稼働が減少したことによるものです。

○今後も各施設において、照明、空調などの適正な管理や公用車エコドライブの推進、再生可能エネルギーの導入などに取り組み、目標達成に向け計画の推進に努めていきます。